

公表 事業所における自己評価結果

公表日 2026年 3月 15日

事業所名		ひだまり				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		事業所内だけでなく敷地内の建物や庭を活用し、広々と使えるようにしています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		2月現在は児童発達支援管理責任者、保育士1名、児童指導員2名を配置しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	△	○	できるだけ動きやすいような導線の確保が出来るように配置しています。	作業用が作業用のため、一部の庭や建物を含めバリアフリーではありません。部屋数が少ないため、完全個室はありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		部屋を仕切る、もしくは扉を外すなど、過ごしやすい環境を作っています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	△	○	個別の部屋や場所を使用することは可能です。	個別の部屋は事業所内では取りにくいいため、敷地内の建物の部屋が使用可能です。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		個別支援計画に沿った内容で、日々の振り返りをしながら職員が参画しています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に1回保護者アンケートを実施し、保護者の意向を把握し、支援に活かすようにしています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のミーティングやDo-CAPの面談時等に現状や課題等を共有し、業務改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	事業所内で課題を把握したり評価を行ったりして、改善に努めています。	外部評価はないので必要であれば、法人本部と協議を行っていきます。
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の放デイ3か所での合同研修、独自の内部研修、また外部研修を可能な限り受講しています。	個々の職員が専門性を高めるために研修を深めていけるよう努めます。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムの作成・公表を行っています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		年に2回の保護者面談や利用時の連絡によりニーズを把握し、事業所内でケース検討を行い、個別支援計画書を作成しています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画書を作成する際のケース検討時や面談時には、直接こどもの支援に関わる職員全員が参加して検討しています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		日々のミーティングやケース検討、職員会議等で児童・生徒の様子を共有し、計画書に沿った支援を行うよう努めています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者からいただく調査票や発達検査の結果等も交え、また日々の行動観察を踏まえて様式を基にアセスメントを行っています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		本人支援の中で「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を含めています。また、家族支援や地域連携等も含めた計画書を作成しています。	移行支援は必要に応じて計画します。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員会議やケース検討の中でプログラムを決めています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		計画書を踏まえて、季節の行事や定番のプログラムを行っています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動や集団活動を組み合わせ、5領域の項目に留意しながら支援を行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前にはミーティングを行い、役割分担等を確認し、振り返りで児童・生徒の様子等を共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎終了後に申し送りが必要な場合は行いますが、基本的に翌日のミーティングで振り返り、職員間の情報共有に努めています。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用日には支援内容や様子、状況等を記録し、振り返りで検証・改善に繋げています。	
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		年に2回の面談を行い、必要に応じて支援計画の見直しをしています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		地域交流は敷地内の事業所等と行い、創作活動、自立支援と日常生活の充実のための活動、余暇の提供は活動内で行っています。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	○		自分で選び、決定する力を付けられるよう、日々の活動の中に組み込んでいます。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		担当者会議には、管理者兼児童発達支援管理責任者が参画しています。	
関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	△	○	関連する他事業所や保育所、児童発達支援事業所、各学校等との連携を行っています。	主治医等とは連携を取る機会がありませんので、必要に応じて機会を設けたいと考えています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校とは、年間計画や連絡調整等の情報共有を行っています。利用児童・生徒の様子や状況等を共有しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		新1年生を受け入れる際には、保育所や幼稚園、児童発達支援事業所等との情報共有を行い、移行が円滑に行えるよう努めています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	支援がある際には、保護者了解のもと、情報提供は可能です。保護者の要望により転居や進学の際にケース等の提示を行い、提供しました。	卒業後の進路等を検討される際に、学校だけではなく放デイも情報共有できる体制があると思ってもらう必要があると考えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	特定のスーパーバイズ等はいませんが、外部の研修等を受ける機会を設けています。	児童発達支援センター等との連携は、必要に応じて行えるよう機会を設けたいと考えています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		法人内の他放デイや同敷地内の子育て支援拠点事業所との交流機会を設けています。法人内の学童クラブとの交流も可能です。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	市内の放デイや相談支援事業所、児童発達支援事業所との連絡会議に参加しています。	舞鶴市内ではなく、中丹に自立支援協議会等があるのは把握していますが、機会があれば参加したいと思っています。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		面談時や送迎時等に様子や状況等の情報を共有し、共通理解が図れるように努めています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要に応じて、面談時や送迎時等に助言を行うよう努めています。また、近場での研修があった場合には情報提供を行うことがあります。	ペアレントトレーニングとしての提供は行っていませんが、それを基盤とした内容をお伝えすることがあります。
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に書類確認や口頭で捕捉しながら、詳細を説明しています。
37		放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談時や送迎時等に共有して頂く情報や意向を確認しています。それらを基に、意思を尊重しながら個別支援計画を作成しています。	
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画書の書面を確認しながら口頭で補足説明を行い、保護者から同意を得ています。	
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者の要望や思いに寄り添いながら、必要に応じて助言や支援を行うように努めています。	
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者、利用児童生徒、ご兄弟姉妹が参加できる「ひだまりコミュニティー」を開催しています。保護者同士の交流が出来るよう企画しています。	保護者会の設立はなく、活動はありません。必要に応じてきょうだい支援を検討します。
41		こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情は随時受け付けています。苦情があった際には、詳細を確認した上でマニュアルに沿って迅速かつ適切な対応を行うよう努めています。	
42		定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		写真付きおたよりの発行は行いました。ひだまりコミュニティーでのスライドで、これまでの活動をまとめたものを上映しています。	
43		個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		就業規則に守秘義務があると明記してありますので、個人情報は十分注意して取り扱っています。	
44		障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々に応じた対応で意思疎通や情報伝達が行えるように努めています。	
45		事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		同敷地の子育て支援拠点事業所との交流を行い、クリスマス会を楽しみました。また、ハロウィン等でも交流する機会を設けています。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを職員間で周知し、保護者には契約時にお渡しする資料に簡易版を入れています。避難訓練等を定期的に行っています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、2か月に1回の頻度で火災・地震等の訓練を事業所内で行っています。長期休みに防災センターに行く機会もあります。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者からの調査票、または通院後の変更等は口頭で状況を確認し、職員間で共有しています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在は食物アレルギーのある児童生徒がいませんが、対象者が利用の際には、医師の指示書に基づいて対応します。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成しています。防災センターでの体験や避難訓練等を実施しています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時にお渡しするしおりの中に、避難場所等をまとめています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々のミーティングの中で、どういったことがリスクになり得るのか、対処方法等を検討し共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		3か月に1回の頻度で、虐待や身体拘束について研修を行っています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束をせざるを得ない際には、了解を得た上で計画書にも記載します。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ひだまり		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 15日		～ 2025年 12月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 17(きょうだい利用あり)
○従業者評価実施期間	2026年 3月 3日		～ 2026年 3月 5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもが主体的に伸び伸びと動けること。 やりたいと思ったことを可能な限り実現できるようにサポートしていること。 ひだまり全体で一体感のある関係性を育めるよう取り組んできたこと。	様々な場面での選択を日常的に取り入れている。また、長期休み前にはやりたいこと、行きたいところ、食べたいもの等のアンケートを取り、活動内容を決めている。子どもたち自らがやりたいことを提案し、一緒に計画・実行していくことで、創意工夫を凝らしながら主体的に動けるよう取り組んでいる。	子どもたち自らが提案できるような環境を作り続けていく。自分が提案したことを他の子どもたちも一緒に楽しめることで、自分の居場所のひとつとしてのひだまりを認識できる機会を作り続ける。子どもも職員も共に成長していけるよう関係性を日々育み、深めていく。
2	敷地内の庭で身体を動かすことが出来る。古民家で昔ながらの広い庭がある。飛び石、巨石、小道、植木、石畳、苔むした地面等があり、全くバリアフリーではないこと。	バリアフリーではない環境を悲観するのではなく、最近には見られなくなったありがたい環境と捉えて、庭での鬼ごっこやかくれんぼ、ドロケイなどをして走り回ること、段差での足の動き、滑りやすい地面での踏ん張り方や避け方、石に登って身体を支える指先や腕、身体の力など、自らの身体の使い方を遊びの中で経験し習得できる機会を設けている。	庭の一角で畑を作っており、苗や種を子どもたちと買いに行き選んでもらったものを植え付け、水やり等をしながら育て、調理の時に畑から収穫したものを使うなど取り組んでいるが、敷地が広く、建物が多いので、もっと活用方法を考え、効果的に使えるよう工夫していく。
3	同敷地内の認知症デイ、子育て支援拠点事業所、同法人内の放デイや学童、高齢者施設との合同の取り組みが出来ること。 近所に住んでおられる方が時々猫や犬の散歩に敷地内に寄ってくださり、地域の方、猫や犬と触れ合うことが出来ること。	八口ウインでは、仮装をした子どもたちが出向いて認知症デイのご利用者様や、子育て支援拠点事業所のスタッフ様からおやつを受け取ったり、クリスマスでは、ひだまりの子どもたちが手話歌を披露したり、小さいお子様と触れ合ったりして、多世代で地域の方々と過ごす時間を設けている。また、地域の方が気軽に寄ってくださるような温かい関係性があ	地域の一員として、近くの神社のお祭りをお散歩がてら見に行ったり、身体を動かす一環として地域の川沿いをお散歩したりして、公共施設だけではなく、外に出て行く機会を設けているが、更にマナーや交通ルール等も学べるように取り組んでいく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	古民家なので段差が大きく、通路や部屋がそんなに広くはないため、車椅子を利用するお子様や、歩行に困難があるお子様等の受け入れが難しいこと。また、部屋数が少ないため、静かな環境や少人数での環境が必要なお子様への対応が難しいこと。	室内の基準が、車いすや歩行が困難なお子様に対応できる様式になっていないことが大きな要因。そのため、上記のようなご利用者様に選んでいただけないことは、福祉施設としては致命的だと思っている。そして、部屋数が少ないことで、個室が必要なときに提供できない、または敷地内の別の建物に行くという手段になってしまう。	究極を言えば建て替えしなくなるが、スロープを付けられる箇所を設置したり、多目的トイレを増設するなど、不慣れた場所を少しでも回避できるのではと考える。別棟に行くためには対応できる職員人数が必要となる。
2	家族支援プログラムや家族も参加できるような研修会、情報共有があまり出来ていない。ペアレントトレーニングの研修等は、アドバイスとしてお伝えすることはあっても、実際に研修に参加していただけるわけではないので、情報共有が必須となる。	保護者が集う機会(ひだまりコミュニティ)は設けており、これまでアンガーマネジメント、支援学校と支援学級の特徴(進路先含め)、睡眠講座2回等をコロナ時期以外、年に1回は開催し、きょうだいの参加も多かったが、保護者同士が顔を合わせて気軽に話が出来ることがある方が良いのではと感じている。	きょうだいの支援(特に小学校中学年以上)は必要に応じて開催出来たらと思っているが、同じような年齢の対象者がいないと難しいと思う。 保護者への研修の情報共有は増やしていきたい。また、保護者から相談を受けた時の対応が出来るよう、職員が研鑽を重ねることが必要。
3	安全計画の作成・実行や、日々の取り組み等について、送迎時にお伝えしているものの、アンケートを見る限り伝え切れていないこと。	以前作成していた、みんなの家Instagramは、大樹会のInstagramが開されたときに、更新を止めた。不定期に配布していた写真付きおたよりも、職員の異動等により出せる頻度が少なくなってしまうことで、日々の活動内容を知っていただける機会が減ってしまった。	保護者が実際の活動を見に来れる参観日のような週を設けても良いと考えている。また、ひだまりコミュニティで講座の後に必ずスライド上映を行い、写真や動画をまとめたものにて活動内容をお伝えしているが、参加されるご家庭ばかりではないので、ひだまりコミュニティの頻度を増やしたり、活動内容を知っていただけるよう考えていく。

公表 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ひだまり

公表日 2026年3月15日

利用児童数 2026年3月1日現在 17名

回収数 94%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	15			1	とても工夫された環境です。	室内のスペースが限られており、庭や母屋等の敷地内を活用し、様々な経験を積んでもらえるようにしています。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	12			4		現在は4名(児童発達支援管理責任者、保育士1名、児童指導員2名)を配置しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	2		2		部屋数が少ないため、動線がスムーズではない箇所もありますが、視覚的に分かりやすいように配慮しています。古民家、石や岩のある庭のためバリアフリーではありません。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	15			1	子供の発達に応じて工夫されています。	畳と絨毯の部屋で、活動に合わせて家具を移動する等、その都度配置を工夫しています。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16				親の希望に寄り添った内容で本人のレベルに合った支援が受けられています。	日々の様子や、年に2回の保護者面談を通して、お子さまの理解に努めています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	16				とても合っています。	「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」を軸にした支援プログラムに沿った内容を日々の活動で行っています。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16				親の意向が反映されており、子供の得意なことを進んでやらせてくれます。	子どもたちの日々の様子や、年に2回の面談、関係機関との連絡等を通して、ケース検討を経て様々な視点から分析し、個別支援計画を作成しています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16				親の希望からスタッフの方々の目録、子供の発達に必要な内容で計画立案されていて実践して下さっています。	個別支援計画書は5領域に跨る支援を提示した計画書を採用し、支援内容もより具体的に設定してあります。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16				タイムリーな内容で支援して下さっています。	5領域の支援、家族支援等に基づいて作成した個別支援計画書に沿って支援の内容を組み立てています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15			1	調理実習や長期休みのおでかけ、季節のイベント等、楽しい取り組みが沢山あります。	定番の活動（運動部、清掃部、ひだまり屋、音楽部、手話講座、避難訓練等）の他に季節の行事を含めながら変化のあるプログラムを作成しています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	2	1	5		法人内の放課後等デイサービスや同敷地内の子育て支援拠点事業所と交流する機会を設けています。
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16				あります。	保護者様にお時間をいただき、主に契約時に必要内容をお伝えしています。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16				定期的な面談があり、親子で大変お世話になっています。	作成した個別支援計画書については、適宜説明を加えながらお伝えしています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	2		3		ひだまりコミュニティーで、様々な講座を実施してきました。近場で良さそうな研修等があれば、チラシをお配りする等の提供をすることがあります。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16				過ごしている時の様子を毎回数えていただけるので楽しみにしています。	送迎時、電話連絡、面談等で、お子さまの様子をお伝えしています。ご家庭での様子もお伺いし、様々なお子さまの状況を理解しようと努めています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16				わからないことや困りごとにも親身になって教えていただいたり、聞いてくださります。	年に2回の面談を行っています。送迎時にお会いしたときにも、必要に応じてお伝えしています。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16				子供を大切に接していただけて、皆さんやさしくて嬉しいです。安心してます。	お子さまに関わる関係機関のひとつとして、共に成長を喜べるよう、どんなことでも気さくに話をしていただけるように努めています。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	3	1	4	・気にかけていただけています。 ・夏休みなどにも開催して欲しい。	ひだまりコミュニティーを開催し、保護者様同士の交流の機会等を設けています。必要に応じてきょうだい支援等にも広がっていただくと考えています。
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16				親身になって寄り添った対応をして下さりありがたいです。	基本的には年に2回の面談を設けていますが、基本的には随時対応可能です。いつでもお申し付けください。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16				とても配慮してくださり、お気づかいありがとうございます。	面談や送迎時に様子をお伝えする他に、お知らせの配布等で情報をお伝えしています。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16				自分の子供だけでなく、お友達のことも知ることができ、楽しみにしています。	ひだまりグラムでの活動報告、法人ホームページにて自己評価等の発信を行っています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16				とても配慮してくださっています。	職員には守秘義務がありますので、個人情報には特に厳重に注意しながら取り扱っています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1		1	されています。	事業所に各種マニュアルがあります。簡易版を契約時にしおりにして配布しています。各訓練は実施しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			3		非常災害の発生に備え、火災、地震、不審者等の訓練を約2カ月に1回の頻度で不定期開催しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16				感染対策も完璧に対応され、保護者にもきちんと丁寧に説明して下さります。	安全計画を作成し、それに沿って訓練等の必要な内容を行っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16				小さなことでもタイムリーに報告して下さるので安心してしています。	事故等が起らないよう配慮していますが、発生した際はマニュアルに沿って迅速に対応するよう努めています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16				いつもゴキゲンで帰ってくるので、迎えるこちらも嬉しいです。	ハロウィンや豆まきなど、緊張感が漂う時期はありますが、リラックスして通所して頂けるようにしています。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	15	1			週1回で、診察日と被るので利用回数が少ないのがとても残念です。もっと利用したいです。	楽しい、また来たいと思ってもらえるような活動を心掛けています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16				皆さんとても親切で丁寧に接して下さり、子どもにもとても大切に接して下さります。	お子さまだけではなくご家族様へもきめ細やかで丁寧な支援が行えるよう、職員一同が研修や学習を通して学びを続け、日々の実践に活かしていきます。

事業所名	ひだまり	支援プログラム（参考様式）				作成日	2025年	9月	1日	
法人（事業所）理念	一人ひとりが、できることからひとつずつ積み重ね、更に「できた！」に繋がるよう支援します。									
支援方針	心の安定を図り、対人コミュニケーションの向上を図ります。身辺自立が出来るようにスキルの獲得を目指します。									
営業時間	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし			
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	おもちゃや道具の出し入れや片付け、物の管理等、身の回りの環境を整える方法を学びます。また、掃除機や箒、塵取りの使い方、掃除の仕方等の清掃作業を行う清掃部の日を定期的に設けています。衣類着脱、排泄、食事等の日常生活における必要な動作のスキルを獲得し、健康的で自立した生活が出来るよう取り組みます。指示がなくても、何をするか等を自分で選んで行動に移せるよう、日課のスケジュールを進めていくことで、余暇の過ごし方にも繋がっていくよう一緒に考えていきます。健康状態の維持を目指しますが、体調不良の際には表情や行動等、普段とは違う様子がないか観察しながら、健康管理を行います。								
	運動・感覚	指先の微細運動や、力の強弱をつけられるコントロール力、距離感等、身体機能の維持向上を図ります。鬼ごっこやかくれんぼなどの遊びから、体幹を鍛えたり、自分の身体の感覚を知ったり、バランス感覚を養ったり出来るよう取り組みます。運動部や体操部の日は、与保呂川沿いの散歩や筋トレ、ダンスなど身体を動かす活動も設けています。光や音、感触等の感覚過敏や感覚鈍麻に配慮し、安心して過ごせる環境を整えるとともに、自らが心地よい空間を作ったり、選んだり出来るよう考えます。								
	認知・行動	物の大小の差を理解したり、数の概念を養ったり、時計を読んで予定に合わせて生活を送ったり出来るよう、学習を積み重ねます。畑の野菜収穫を通して、天気、色、形、重さ、大きさ、成長の違い等を体験します。庭に出たり、外出することで、天気や気温、季節等の環境の変化も学びます。嫌なことややったことがないことに対して、「頑張ってみよう」という意欲や挑戦、課題に向き合う姿勢や感情をコントロール出来るよう、一緒に考えていきます。挑戦した結果、「やって良かった」「出来た」という気持ちになれるよう、取り組みます。								
	言語コミュニケーション	人の話を聞く、相手に要求を伝える等、言葉でのコミュニケーションだけではなく、表情、声のトーン、ジェスチャー、絵カード等の非言語的コミュニケーションも交えながら、自分も相手も大切にしたいコミュニケーションスキルの獲得を目指します。また、特性に応じて絵カードや表記方法の工夫、手話等も使用し、気持ちに寄り添った支援を行います。								
	人間関係社会性	自分から挨拶ができること、マナーやルールを守れること、順番を守ったり交代が出来ること、声掛けに沿った行動が送れること、他者との距離感の取り方、言葉遣い等を日々の集団生活で学びます。自分がどんな気持ちなのか振り返ったり、物事の対処方法を考えたりしながら、気持ちのコントロールが出来るよう取り組みます。集団の中で、自分も相手もどちらも大切にしたい行動を選択できるように、一緒に考えていきます。								
家族支援	送迎時や定期的に行う面談の中で家庭の様子を伺い、自立した生活に向けて支援しています。				移行支援	各関係機関との連携を図り、スムーズな移行ができるよう支援しています。				
地域支援・地域連携	地域の住民や関係機関などと共有を図りながら、社会参加する機会を作ります。戸外活動で公共施設を利用し、交流する機会やマナーを学ぶ機会を作ります。				職員の質の向上	発達支援に必要な専門研修を受講し、研鑽に努めています。				
主な行事等	・誕生日会 ・季節の行事 ・法人内事業所、敷地内子育て拠点事業所等との交流 ・戸外活動 ・避難訓練 ・買い物体験 ・乗り物体験 ・みんなの家行事 ・ひだまりコミュニティー 他									

令和 7年度

安 全 計 画

放課後等デイサービス ひだまり

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
避難訓練等	防災訓練（火災・地震のいずれか：ひだまり滞在時を想定）		虐待研修(身体拘束) 感染症研修 防災訓練（火災・地震のいずれか：ひだまり滞在時を想定）	防災訓練（火災・地震・防災センターでの体験のいずれかを想定）		防災訓練（火災・地震のいずれか：ひだまり滞在時を想定）
その他 * 1						
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
避難訓練等	感染症研修	虐待研修（身体拘束） 防災訓練（火災・地震のいずれか：ひだまり滞在時を想定）		防災訓練（火災・地震のいずれか：ひだまり滞在時を想定）	不審者対応訓練（警察署の協力により、ひだまりで行う）	防災訓練（火災・地震・防災センターでの体験のいずれかを想定）
その他 * 1						

◎避難訓練で災害に対する理解を深め、速やかに避難行動できるようにする。

* 1 交通ルールが理解できるように配慮しながら散歩等へ出かける。